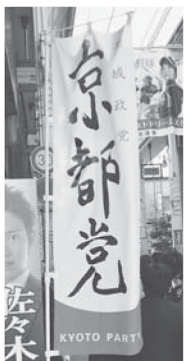


「古い政治」を新たな装いで

「地域新党」・京都党の実態

4月のいっせいで地方選挙を目前に控え、マスメディアが「地域新党」を持ち上げています。京都では、京都市議選(定数69)に8人を擁立(左京、北、中京、下京、南、右京、西京、伏見の各区)する京都党です。同党の実態を見てみると。

(編集長・唇神猛文)



京都各地に立つ京都党ののぼり

暮らしの悲鳴に背を向け 福祉という言葉はごまかす

「私は福祉という言葉は使わないようにしたい。お年寄りが自立することが必要」。京都党の村山祥栄代表(左京区予定候補)は2月24日、北区内で開かれた同党の北区予定候補の総決起集会で、こう訴えました。福祉という言葉は「ごまかす」という宣言です。

同党が1日、京都市議選に向けて発表したマニフェスト(選挙公約)の3つの柱のひとつに「福祉」を置かないことを明言しました。

「住民の福祉と暮らしを守る」というのが自治体の原点です。京都党の選挙公約は、「自立」と「配慮」として「住民の福祉」としての自治体の役割を投げ捨てるものではないでしょうか。



地域政党京都党 2011政策目標「自立」(地方議会版マニフェスト)



2011年3月11日 地域政党京都党

京都党が1日に発表された京都市議選向けマニフェスト(選挙公約の冊子)には、3つの柱のひとつに「私たちは福祉の概念を見直し、必要ならば見直さなければなりません」と記載(下)しています。



街頭で議会改革を訴える京都市議団(昨年11月)

理由について「延命措置のためにお金を使うことはもうやめて、自立のためにお金を使っていくことが必要」などと述べ、市政の基本に「福祉」を置かないことを明言しました。

「住民の福祉と暮らしを守る」というのが自治体の原点です。京都党の選挙公約は、「自立」と「配慮」として「住民の福祉」としての自治体の役割を投げ捨てるものではないでしょうか。

「ムダ遣いノ」と言いながら 大型事業を温存、推進

「ムダ遣いに対してノー」と、しがらみを排してたたかう。京都の未来を賭けたたたかいです。村山後援会が5日、左京区内で開いた総決起集会で、村山代表はこぶしを振り上げて訴えました。

京都市のムダ遣いの最たるものは、京都市内高速道路、焼却灰溶融炉の建設などの大型公共事業です。選挙公約では、これらについての言及はいっさいな

いばかりか、「中間駅」の地元負担問題が未解決のリンア中央幹線(「東京・大阪間」の京都ルート誘致)や、富裕層のための有名高級国際ホテルの誘致を打ち出しています。

また選挙公約は、「南部開発・高度集積地区の再構築」として建築基準(建ぺい・容積率)の規制緩和をはじめ、「景観条例の見直し」として規制緩和や建築物の促進などを掲げています。

「大型事業をやれば地域が潤う」。これこそ自治体財政を破たんさせてきた古いやり方ではないでしょうか。

25項目の選挙公約には、高すぎる国保料の引き下げ、子どもの医療費無料化の拡充、保育所の待機児童の解消

「昨年秋まで、私は自由民主党京都府連青年部長等でありました。また、2008年11月の京都市議員選挙で西京区の選挙区に立候補し、その後、京都府議選で西京支部の支部長として、皆様のもとで貴重な経験を積むことができました。

私の政治的見識を育てて下さった京都府連の諸先輩や後援会の皆様には、改めて、深く感謝するのみです。京都党の予定候補(西京区)が2月、支援者に出したあいさつ文の一節です。自民党の公認争いに敗れて京都党から立候補することになりました。

もともと村山代表は

「大阪、名古屋の地域政党は首長にぶら下がっている組織。京都党は首長に依存していない」。村山代表は1日のマニフェスト発表の席上、他の地域政党と違うと刀説しました。その一方で村山代表は、後援会決起集会で「大阪維新の会」推薦の予定候補(現職の大阪市議)を迎え、激励のあいさつを受けました。

2、市民の自立～福祉ではなく、「自立」と「配慮」～

定年が65歳に定められたのはヒスマルク時代のドイツ。これが第一世界大戦時、米軍が採用した世界的基準となりました。しかし、実は当時の平均寿命から計算すれば、当時の65歳は現在の75歳に相当します。

この概念に囚われ続ける故に、高齢者を労働市場から排除し、福祉という言葉で「くくり」にしてしまっている現代社会があります。社会福祉費が増大を続ける中、私たちは福祉の概念こそ見直しをしなければならないと考えています。

私たちが目指すは、全ての人々が自立できる社会であり、それでは補いきれない部分を国で支え、あふれる社会の実現です。その為の手助けをすることが行政の役割だと考えています。

選挙のマニフェストを整理した選挙公約の自立、ムダ遣い自分のことと

「オール与党」の二員を自認

「オール与党」の二員を自認

「オール与党」の二員を自認

共産党

税金のムダ遣いストップ 京都市議会改革をリード

日本共産党は、税金のムダ遣いを正すとともに、住民の苦しみ、痛みを心に寄せ、住民の声と願いの届く議会への改革をめざし、京都市議会で改革をリードしてきました。

日本共産党市議団は、市内高速道路や焼却灰溶融炉の中止を

2900億円)。また、ゆがんだ同和行政を最終させ、同和対策費は160億円(93年度決

算がゼロに。議会改革で日本共産党市議団は、議員報酬の3割削減を提案した。3路線の建設費の3割削減を提案した。3路線の建設費の3割削減を提案した。

「オール与党が否決」し、見直しをリードしています。また、議員の費用弁償(白昼)の廃止を提案し、来年度から廃止になる見通し。さらに海外行政視察を率先して

シリーズ・いっせいで地方選

京都府・市議選4月1日告示、10日投票